

新市庁舎完成で 掛け時計を寄贈

大和高田R/C

大和高田

大和高田市が建設中の市役所新庁舎が完成し、7月12日に供用開始することが決まった。地上6階建てで、庁舎面積は従来の1・5倍に。これまで1階の1カ所のみだった多目的トイレが各階に設けられるなど、市民の利便性が大きく向上する。

1963年完成の現庁舎は耐震強度の不足に加え、洋式トイレが各階になく、真夏



に空調が故障するなど周辺自治体と比べても不便さが際立っていた。

新庁舎は4月8日に竣工。県産材を多用した吹き抜けの1階多目的ホールや市民に開放する3階屋外テラスなども設置している。現庁舎は解体し、跡地の一部は新庁舎駐車場に活用するという。

今年、結成60周年を迎えた大和高田ロータリークラブ（鈴木勝士会長）はこのほど、新庁舎で使う電波式掛け時計18個を市に寄贈した。写真。各階の3カ所に設置する予定で、クラブの甲村侑男・実行委員長は「時計は誰もが使うもの。使いやすい新庁舎になれば」と期待。目録を受け取った堀内大造市長は「ロータリークラブにも新庁舎と一緒に時を刻んでもらいたい」と話した。